

開会挨拶

農林水産省 技術会議事務局長 **別所 智博 氏**

本日は皆さまお忙しい中、当省主催のシンポジウムにご出席を賜りましてまことにありがとうございます。農林水産省技術会議事務局長の別所でございます。

本日は、生物多様性連携シンポジウムということで、産業界の皆さま、あるいは研究に携わっている皆さま、そしてさまざまな分野から多くの方々にご出席をいただいております。

SDGsあるいはESG投資という新たな社会的内容性が芽生えてきている中で、企業の皆さま方を取り巻く環境も変化しております。

本日のシンポジウムはそういった情勢をとらえまして、農林水産分野の自然資本の取り組みを起点としたSDGsへの貢献というテーマで行わせていただきたいと思います。農林水産分野における生物多様性の保全活動を今一度とらえ直して、自然資本を活用した農林水産業と企業活動との経済的連携を推進する道筋をお示しし、皆さま方にいろいろとお考えいただければ大変幸いです。

一昨年のメキシコのカンクンにおける生物多様性条約第13回の締約国会議(COP13)においては、農林水産分野における生物多様性の主流化について取り上げられました。また、持続可能な消費・生産を実現するために、企業が自らの経営においてどのような配慮をしていただくことが必要かということが議論されました。

今後2020年に向けて、これまでの取り組みの評価と、ポスト愛知目標について検討が進められるという道筋になっているところです。

また、政府としては、昨年12月に8つの優先課題を軸とする「SDGsアクションプラン2018」を公表させていただいております。生物多様性、森林、海洋等の環境の保全という取り組みにおいて、気候変動、生物多様性に配慮した持続可能な農業の推進を取り進めていくことになっております。

このような国内外の生物多様性、あるいは環境という課題を取り巻く機運の高まりを背景に、農林水産業における生物多様性保全の取り組みにおいては農林漁業者と企業の方々連携し、両者がともに経済的な価値を見いだしていただき、その価値を消費者の方々あるいは社会にアピールしていくという動きが芽生えつつあるという状況です。私どもとしてもそういったものを促進させていただければと考えております。

本シンポジウムが、皆さまの生物多様性保全に向けた取り組みのご参考として役立ち、農林漁業者と企業の方々連携した取り組みの促進につながれば、私どもにとっても幸いです。

本日のシンポジウムが皆さま方にとって意義深いものになることを祈念申し上げまして、主催者を代表して冒頭のご挨拶にさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。